

植民地時代に編纂された教科書に関する総合的研究

研究代表者 言語文化系教育講座 石井正己

①プロジェクトの概要

かつて「日本」はアジアに植民地を拡大し、台湾、朝鮮、南洋群島、満州に及んだ。今、国際化の時代を迎え、近隣諸国との関係が重視される中で、そうした歴史は忘れてはならない原点として存在する。「日本」は重要な植民地政策の一つとして、国定教科書に基礎を置きながら、それぞれの植民地にふさわしい独自の教科書を編纂した。なかでも、国語としての日本語を教育することを重要視した教科書づくりが大きな特色となっている。しかし、国定国語教科書の分析に比べ、この分野は復刻版が出て研究環境が整ってきた段階にあり、総合的な研究は進んでいない。そこで、平成23年度には植民地で編纂された教科書に載る教材のデータベースを作成し、平成24年度には植民地における教材と国定教科書の関係、および植民地における教材相互の関係を明らかにする計画である。また、それぞれの地域における研究の進捗状況に合わせて、国内はもとより、海外の研究者を招聘して、講演とシンポジウムからなる国際研究フォーラムを開催し、この課題を広く共有できるようにしたい。

②得られた成果の概要

2年計画の1年次にあたる本年度は、大きく次の2点を実施することができた。

A 植民地で編纂された教科書に載る教材のデータベース化

植民地時代の教科書については、宮脇弘幸・研究代表者の『別冊日本植民地・占領地・国定教科書目次目録』(平成21年)が最も広くデータを集めている。しかし、誰もが検索できるようなシステムになっているわけではない。そこで、本年度は復刻版が整備されている『台湾国語読本』『南洋群島国語読本』『満州植民地日本語教科書集成』についてデータの入力を行った。絵画のみの教材に「いす」「せんせい」などの言葉を与え、「五十音図」など言語事項に配慮し、教材に関する教授書のデータを入れて、可能な限り全容がわかるような工夫を図った。

B 国際研究フォーラム「帝国日本と国語・教科書」の実施

日程 2012年3月4日(日) 13:00~17:00

会場 東京学芸大学 W110 教室

内容 趣旨 帝国日本の植民地教科書 東京学芸大学教授 石井正己

発表 朝鮮総督府学務局における民間説話調査と教科書

東京学芸大学博士課程 金広植

講演 近代アイヌ教育史における「日本語」と「アイヌ語」

北海道立アイヌ民族文化研究センター研究課長 小川正人

講演 植民地朝鮮の「国語」教科書

全南大学校教授 金容儀

総括 国家・民族・個人にとっての言語

千葉大学名誉教授 荻原眞子

主 催 東京学芸大学石井正己研究室

後 援 NPO 法人日本子守唄協会、日本民話の会

参加費 無料(事前申込は不要)

これに先立つ3月3日(土)には、「中国・満州の昔話と教育」の国際研究フォーラムを実施し、東京都立大学名誉教授・飯倉照平の講演「中国「東北」をめぐる民間伝承」、ソウル大学教授・全京秀の講演「特務機関と人類学者が共に作った満蒙民族学」、法政大学教授・千野明日香、國學院大學栃木短期大學講師・野村敬子、東京学芸大学教授・石井正己のシンポジウム「満州の昔話と教育」を行った。

③今後における教育上の活用予定及び予想される効果等

2年計画の2年次にあたる次年度は、次の4点を実施する計画である。

A 植民地時代の教科書教材のデータベースの公開

朝鮮の国語教科書と国定国語教科書のデータを加えて、植民地時代の教科書教材の基礎的なデータベースを構築する。作成したデータベースは、附属図書館と連携を図り、学外からも広く検索できるシステムとして公開できるように検討する。その際に、望月文庫所蔵の教科書のデータも照会できるようにしたい。なお、朝鮮の国語教科書については復刻版が十分に整っていないので、韓国出身の研究者・留学生の協力を得て情報を収集する予定である。

B 植民地時代の教科書に載る教材の個別研究の推進

次年度の修士課程の授業は、春学期・秋学期ともに国定国語教科書と植民地教科書を同時代史の中に置いて研究を進める予定である。教材の入力を行いながら、そこから得られるデータをもとにした個別研究を推進する。春学期は「台湾」「朝鮮」「南洋群島」「満州」に関する植民地教材を取り上げ、秋学期は「神話」「軍記」「説話」「和歌」といった古典教材を取り上げ、それぞれの意図を分析する。

C 成果報告書の発行

国際研究フォーラム「帝国日本と国語・教科書」については、講演のテープ起こしを行い、すでに原稿の依頼をしてあるので、それらを編集して、7月には報告書を発行する。また、「植民地時代の教科書に載る教材の個別研究」については、大学院生が授業で行った発表をレポートにまとめ、これも報告書を発行する。発行した報告書はフォーラムの参加者をはじめ、研究者・研究機関に発送する。

D 成果発表の国際研究フォーラムの開催

2年間の総括として、平成25年3月に「植民地時代に編纂された教科書に関する総合的研究」について公開のフォーラムを開催し、成果の発表の場とする。記念講演を依頼するほか、前半は「植民地時代の教科書教材のデータベースの活用」、後半は「植民地時代の教科書に載る教材の個別研究」で構成し、ディスカッションの時間を十分に取れるように工夫したい。